



TAKE OFF 創造的復興の、その先へ

阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビル開業記念特集



▲4階の展望デッキ、滑走路側へせり出した「花道型」の展望デッキからは、飛行機をより近くから眺めることができる



▲開業に先立ち3月19日には「阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビル供用開始記念式典」が同空港で開催された。国土交通省、県、自治体、空港関係者らによる記念セレブレーションでの鏡割り



▲展望デッキに通じる通路では搭乗待合エリアを一望。家族や友人を搭乗直前まで見送ることができる



▲3月23日の開業日の1階フロア、国内線と国際線が一体化した新ビルは従来の1.4倍の広さに拡大している



◀ 供用開始記念セレブレーションには県内外から多くの関係者が訪れ空港施設の完成を祝った



▲1階のチェックインカウンター



▲1階到着口正面の「ウエルカムラウンジ」。肥後漆喰の阿蘇五岳アートや八代産いぐさの畳敷イスなど、利用者が最初に熊本を感じられる要素が散りばめられている

打ち出している。繰り返し発生する大地震にも耐える構造を備えるとともに、電源・通信・上下水道などの各種ライフラインを確保し、災害時でも全ての空港利用者が安全かつ安心して滞在できる機能を備えた。また、感染症拡大防止策でも旅客動線管理システム(PFM)の導入による利用者の混雑状況把握や抗菌フィルター採用による換気設備の機能向上も。さらに脱炭素に向けた取り組みや、国内基幹空港で導入されているファストトラベルを推進する最先端機器を導入し、スムーズな移動を実現する。

開業前の3月19日の供用開始記念式典では、熊本国際空港(株)の新社長が「TSMCの進出など空港周辺地域の活性化に向け、様々な取組みが進んでいる。その中心施設として熊本の発展に大きな役割を果たしたい」と抱負を語った。国交省の清水政務官は「九州エリアでの観光交流の拠点としての役割に期待する」、蒲島知事は「創造的復興のシンボルがいよいよオープン。県民に夢と希望を与え、世界に誇れる空港だと思ふ。航空ネットワークの拡大や空港を核とした地域経済の活性化への期待は大きい。県経済発展へ向け尽力していきたい」と来賓祝辞を述べた。

県経済のけん引役への期待高まる

創造的復興のシンボル

阿蘇くまもと空港新旅客ターミナルビル開業

熊本地震からの創造的復興のシンボルとして建設していた新旅客ターミナルビル(熊本国際空港(株)運営、益城町小谷)が3月23日に開業した。

国内線・国際線が一体化する新ビルは、これまでの国内線・国際線を合わせた規模と比較して約1.4倍(3万7800㎡)に拡大。熊本城の黒漆・漆喰をイメージした外観をはじめ天井板に小国杉などの県産材を使うなど随所に熊本らしさを



▲供用開始記念式典でテープカットをする左から新原熊本国際空港社長、清水国土交通大臣政務官、蒲島県知事